



退職判事正四位勲三等年田口通照外
四名叙位進階内則第五條ニ依リ位階
陞叙ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治二十七年二月十四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

内

閣

明治廿七年二月十三日

内閣書記官

多田

内閣總理大臣

内閣書記官長

多田

退職判事正四位勲三等年田口通照外四名ハ孰レモ
高等官在職滿六年以上ニシテ勤勞不少候處今般
退職又ハ諭旨退官相成タルニ付叙位進階内則
第五條ニ依リ特旨ヲ以テ各位一級進メシ然ルヘシ

内閣

退職判事正四位勲三等年田口通照

正四位勲三等船越衛

退職判事從四位勲四等富永冬樹

從四位勲三等梶山鼎次

正五位勲五等銀林綱男

特旨ヲ以テ位一級被進

正四位勲三等年田口通照

正 全 船越衛

叙從三位

從四位勲四等富永冬樹

全 勲三等梶山鼎次

叙正四位

正五位勲五等銀林綱男

叙從四位

退職判事進階之儀ニ付上奏

從三位

退職判事正四位勲三等年田口通照

正四位

退職判事從四位勲四等富永冬樹

右ハ多年高等官ニ奉職勤勞不尠候ニ付敘
位進階内則第五條ニ依リ特旨ヲ以テ位一階
ヲ進メラレ度謹而奏ス

明治廿七年一月十一日

司法大臣 芳川顯正



司法省

親展送附 四 端

元辨理公使梶山鼎外、位階陞叙儀
別紙ニ通り致上奏矣可然取計相成
度此段申進也
明治二十七年一月十五日

外務大臣陸奥宗光

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

外務省

元辦理後從四位勲三等梶山昂介
右ハ明治八年十月ヨリ十七年余勤續シ
其功勞不少然ルニ客歲十二月二十日
官ノ都合ニ依リ諭旨免官相成候
ニ付テハ特旨ヲ以テ位階被進正四位
ニ被叙候様仕度此段謹テ上奏ス
明治二十七年一月十五日

外務大臣陸奥宗光



外務省

明治廿七年二月 日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

元宮城縣知事

四位勲三等船越 衛

元非職埼玉縣知事

五位勲五等銀林 綱男

右孰しも高等官在職滿六年以上ニシテ勤勞不少
候處今般諭旨退官相成タルニ付叙任進階内則
旁五條ニ依リ特旨ヲ以テ位一級進メラレ然ルヘシ

内閣